

総合的な学習の時間全体計画

島根県立松江工業高等学校

生徒の実態
部活動に7割参加
学校行事に積極的に取り組む
進路意識の多様化

地域の実態
学校行事等においては、協力的で
学校への期待も大きい。
学校開放講座やボランティア活動
の要請も多い。

各教科等との関連

道徳・特別活動	
国語	国語を適切に表現し的確に理解する能力を養い、伝え合う力を高め、自他を尊重する態度を育てる。
地歴公民	必要な知識を身につけ、社会人にふさわしい判断力や価値観、人権意識を持ち、国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。
数学	日常生活に必要な数学的 思考力を身につけさせ、数学の基本的な概念や原理、法則を理解する事により、物事を公正かつ適切に判断する力を養う。
理科	人間と自然科学のかかわりについて関心や探求心を高め、科学的な自然観や総合的な見方、考えを養う。
保健体育	健康や安全についての知を持ち、各種の運動の実践を通して、生涯にわたり健全な生活を営むための体力や能力を培う。
芸術	芸術に対する感性を高め豊かな情操を養い、芸術に親しむ心を培う。
外国語	言語への関心を持ち、異文化に対する興味・関心を喚起させ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
家庭	家庭生活を営むために必要な知識と技術を習得し、男女が協力してより良い家庭や地域社会を築いていこうとする態度や実践力を育成する。
情報	情報モラルをしっかりと身につけ、社会の国際化や情報化の進展に主体的に対応できる情報活用能力と態度を養う。
工業	工業技術の諸問題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、工業と社会の発展を図る創造的な力と実践的な態度を育てる。また、座学や実践的職業教育を通して、職業人として必要な遵法精神などの規範意識を育成し人間性豊かな職業人を育てる。

校訓
修道 創意
「修道」の語は創立時の校名を継承し、そのもつ本義は自律自学の精神、すなわち「自らの意志で学ぶことが人間として真に生きる道」であり、「創意」は工業教育に不可欠な新たなものに取り組む進取高邁な精神をあらわす。

学校の教育目標
次代を担う社会に有意な形成者として、人権を尊重し人類の平和と発展に寄与できるすぐれた資質を養うため、次の三つの目標を掲げる。
すぐれた知性【知】 高い品性【徳】 健康な身体【体】

総合的な学習の時間の目標
ものづくりを通じて、生徒自ら設定した課題を解決していく学習を目指す。
少人数指導により、知識・技術・技能の深化と統合化を図る。
問題解決に向け、主体的に協力して取り組む態度と能力を養う。
自ら学び自ら考える力「生きる力」を育成する。
自己の在り方生き方を考えることができる生徒を育成する。

保護者・地域の願い
確かな学力を持ち、清潔感のある身なりと態度・コミュニケーション能力を身に付けた人間性豊かな生徒を育成する。

内容

各教科で学んだ事柄を復習しながら、専門的知識と技術を深化させ総合化させる。
役割分担させ、協同・協力して物を完成させる活動の中で「生きる力」「豊かな人間性」「コミュニケーション能力」などの育成を図る。

<流れ>
企画～将来希望する進路先等に関するテーマを設定
計画～テーマについて専門的な立場から分析・整理
設計～専門知識や技術・技能を用い、創意工夫し設計
製作・調査研究～製作計画を立て(場所・工具・期間等)作業分担に従い調査・製作
評価～評価の観点を明確にする。
研究発表会～発表会を開き、意見交換を行う。意見交換や総合評価から成果や残された課題等を整理し、自らの考えや課題が新たに更新され探究の課程が繰り返される。

<内容>
○横断的・総合的な内容
・伝統文化に関すること
・自然と環境問題
・消費生活と資源やエネルギーの問題
・産業社会をめぐる問題
・国際化、情報化をめぐる問題

生徒が興味関心、進路等に応じて設定した内容
・工業技術・技能に関すること
・新商品開発
・環境に配慮した作品製作
・地元産業活性化に関すること
・郷土の自然や風土に関すること
・景観と利便性が調和した都市計画

自己の在り方生き方・進路に関する内容
・職業選択と社会への貢献
・働く意味や働く人の夢や願いについて
・工業人としての社会的責任や規範意識

地域社会・進路先との連携

地域に根ざした交流活動
異世代との交流活動
幼・小・中・高・特別支援学校との交流活動

育てようとする資質や能力及び態度

自ら課題を見つけ、自ら学び考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する「課題研究」を総合的な学習の時間に位置づける。また、道徳教育推進の柱としている。将来の夢の実現に向かって努力し、その中で「生きる力」「豊かな人間性」「コミュニケーション能力」などの育成を図る。



指導方法 学習活動 学習の評価

グループ別編成及び個人研究 諸感覚を駆使する実習の重視 対話を中心とした個別支援の徹底 言語活動による体験の意味の自覚化	学習事項：工業分野における課題 工業技術・技能 工業と環境問題 工業技術とボランティア活動 課題の設定(4月) 課題解決方法の調査(5月) 図面等の立案(6月) 作品製作(6～1月) 中間発表(9～10月) 作品製作・データ整理(9～1月) 最終発表会(2月)	教師による評価 生徒活動の過程の観察による評価 生徒の活動記録を活用した評価 生徒による評価 自己評価 発表会などにおける総合評価 プレゼンテーション力	製作物(作品)の評価 提出報告書による評価 共同研究者からの評価 研究報告書の作成力
指導体制 年間を通じた少人数指導体制 興味関心に応じた多様な選択幅の確保 専門科教員と特別非常勤講師による指導 外部講師(民間企業人)による指導			

評価の観点 評価規準

課題設定能力 (課題を見付け設定する能力)	各教科等の学習内容から自ら疑問や問題点を見付けている。 身の回りの興味関心から自己の課題を設定している。 地域の伝統文化や環境問題の中から自己の課題を設定している。	日常生活や実習等から問題点を見付けている。 地域産業から自己の課題を設定している。
追求する能力 (主体的・創造的・協同的に取り組む能力)	見通しや計画を立て自ら取り組んでいる。 主体的、積極的に粘り強く取り組んでいる。 よりよい解決策を見つけたそうと、振り返りができる。	情報を収集したり分析したりする力がある。 失敗やつまづきを乗り越えようとする姿がある。
問題解決能力 (よりよく問題を解決する能力)	問題解決や探求の過程をの状況をまとめている。 教師や友達に自分から働きかけて問題解決に向かう。 つまづいたときに次の解決策を見いだす力がある。	各教科や実習で学んだ知識や技能を生かしている。 他者の意見や考え方を取り込むことができる。 問題解決のためにこれまでの経験を生かしている。
表現する能力 (プレゼンテーション能力)	取り組んだ結果を分かりやすく発表できる。 研究した成果を地域に向けて発信できている。	取り組んだ結果を報告書にまとめたりしている。
自己実現に向かって行動できる能力 (自らの良さに気付き 将来の夢実現にむけて行動する力)	自分の取り組んだ結果から、さらに新しい課題を見いだしている。 社会人としての自分の生活を描きながら行動している。	自分の得意不得意を自覚している。